

# 1 食肉の流通

## (1) 肉豚の概要

### ア 豚のと畜状況

豚のと畜頭数は1,639万5千頭で、前年に比べ2.5%減少した。(図1、表1)

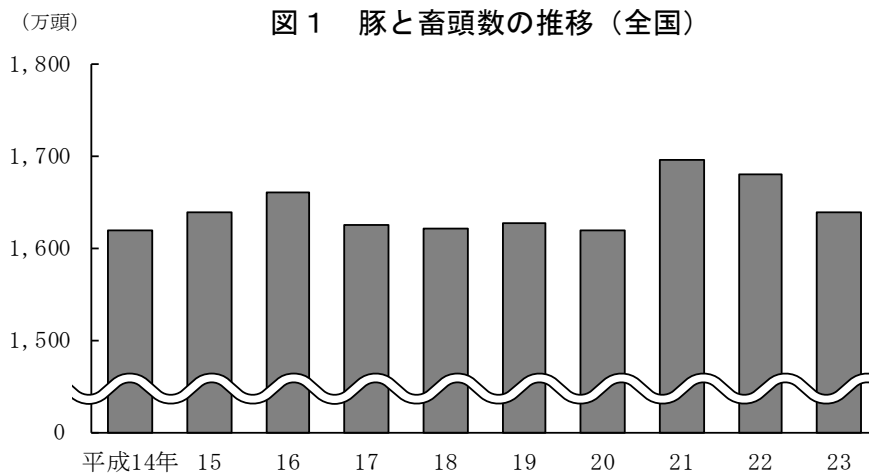


表1 豚と畜頭数の推移(全国)

区分	単位	平成14年	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
実数	千頭	16,183	16,396	16,596	16,243	16,210	16,268	16,192	16,966	16,807	16,395	
対前年比	%		99.1	101.3	101.2	97.9	99.8	100.4	99.5	104.8	99.1	97.5

注：対前年比は、原数（Ⅱ統計表における表章単位）より算出している（以下各表において同じ。）。

## イ 食肉卸売市場における豚肉の状況

### (ア) 取引状況

食肉卸売市場(中央卸売市場10、指定市場18)における豚肉の取引成立頭数は216万1千頭で、前年に比べ1.4%減少した。市場別では、中央卸売市場が91万頭で前年に比べ3.1%減少し、指定市場が125万1千頭で前年並みであった。

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は13.2%で、前年に比べ0.2ポイント上昇した。(表2・3)

表2 食肉卸売市場の豚肉の取引成立頭数の推移

区分	単位	計	中央卸売市場	指定市場
平成22年	千頭	2,191	939	1,252
23	〃	2,161	910	1,251
対前年比	%	98.6	96.9	100.0

表3 豚肉の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

区 分	全国と畜頭数		割 合
	千頭	食肉卸売市場 千頭	
平成22年	16,807	2,191	13.0
23	16,395	2,161	13.2

(イ) 卸売価格の動向（1kg当たり平均価格）

食肉中央卸売市場における豚肉の規格別卸売価格は、「極上」が733円、「上」が469円、「中」が442円、「並」が409円、「等外」が303円で、前年に比べそれぞれ12.6%、2.9%、4.5%、7.3%、31.2%上昇した。（図2、表4）

図2 豚肉の規格別卸売価格の推移  
（食肉中央卸売市場）

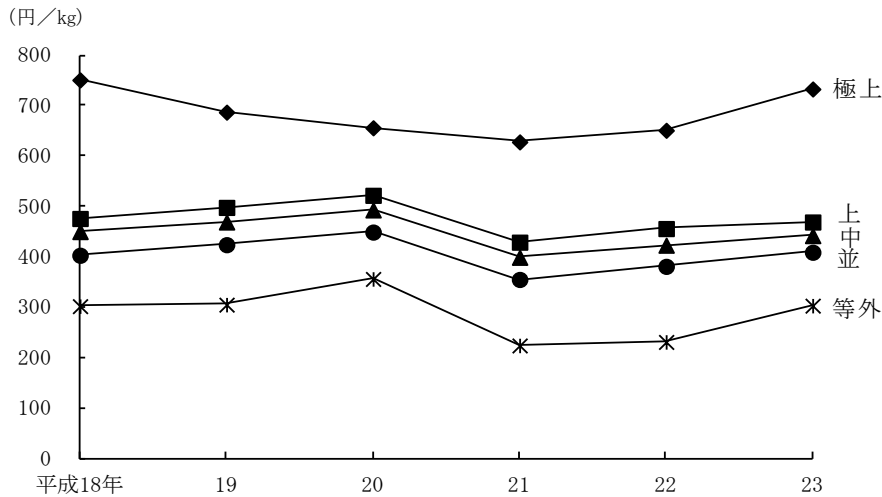


表4 豚肉の規格別卸売価格（食肉中央卸売市場）

区 分	単位	極上	上	中	並	等外
平成22年	円/kg	651	456	423	381	231
23	〃	733	469	442	409	303
対前年比	%	112.6	102.9	104.5	107.3	131.2

## (2) 肉牛の概要

### ア 成牛のと畜状況

成牛のと畜頭数は116万6千頭で、前年に比べ3.6%減少した。

このうち、和牛は51万8千頭、乳牛は41万頭で、前年に比べそれぞれ1.5%、1.3%増加したが、交雑牛が22万2千頭、その他の牛が1万6千頭で、前年に比べそれぞれ19.4%、13.1%減少した。

成牛の種類別と畜頭数割合をみると、和牛は44.4%、乳牛は35.2%で、前年に比べそれぞれ2.2ポイント、1.7ポイント上昇したが、交雑牛が19.1%、その他の牛が1.4%で、前年に比べそれぞれ3.7ポイント、0.1ポイント低下した。（図3、表5）

図3 成牛の種類別と畜頭数の推移（全国）

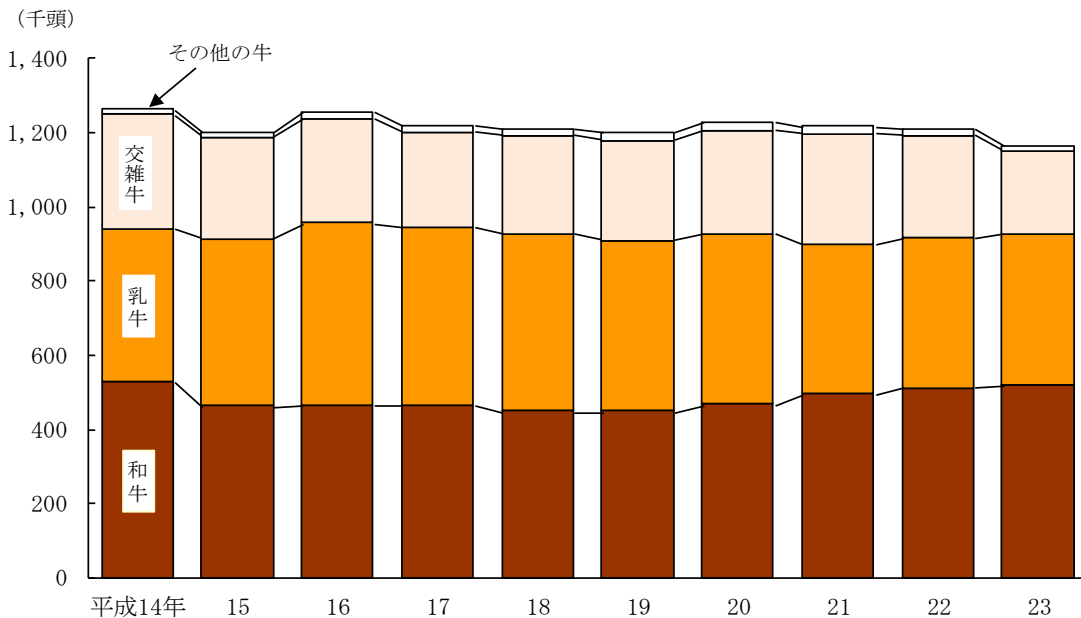


表5 成牛の種類別と畜頭数の推移（全国）

区分	単位	平成14年	15	16	17	18	19	20	21	22	23
と畜頭数											
成牛計	千頭	1,263	1,202	1,256	1,221	1,209	1,199	1,227	1,217	1,209	1,166
和牛	〃	527	461	464	463	449	448	467	495	510	518
乳牛	〃	413	452	492	483	478	458	458	403	405	410
交雑牛	〃	309	274	281	256	262	271	280	299	276	222
その他の牛	〃	14	14	18	19	19	22	22	20	18	16
対前年比											
成牛計	%	114.4	95.2	104.5	97.2	99.0	99.2	102.3	99.2	99.4	96.4
和牛	〃	106.3	87.5	100.6	99.7	97.1	99.6	104.3	105.9	103.1	101.5
乳牛	〃	108.0	109.4	108.9	98.1	99.0	95.8	99.9	88.1	100.4	101.3
交雑牛	〃	145.5	88.7	102.4	91.1	102.4	103.3	103.3	107.0	92.2	80.6
その他の牛	〃	106.1	104.2	129.1	102.5	102.4	114.6	101.0	88.9	92.9	86.9
構成比											
成牛計	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
和牛	〃	41.7	38.4	37.0	37.9	37.2	37.3	38.1	40.7	42.2	44.4
乳牛	〃	32.7	37.6	39.2	39.6	39.6	38.2	37.3	33.1	33.5	35.2
交雑牛	〃	24.5	22.8	22.4	21.0	21.7	22.6	22.8	24.6	22.8	19.1
その他の牛	〃	1.1	1.2	1.5	1.5	1.6	1.8	1.8	1.6	1.5	1.4

注：1 割合の計が100%にならないのは、四捨五入によるものである（以下各表において同じ。）。

2 構成比は、原数（Ⅱ統計表における表章単位）より算出している（以下各表において同じ。）。

## イ 食肉卸売市場における牛肉の状況

### (7) 取引状況

食肉卸売市場（中央卸売市場10、指定市場18）における成牛の取引成立頭数は40万頭で、前年に比べ5.1%減少した。市場別では、中央卸売市場は29万6千頭、指定市場が10万4千頭で前年に比べそれぞれ3.7%、8.9%減少した。

畜種別では、和牛は21万5千頭で前年に比べ3.1%増加したが、乳牛が7万2千頭、交雑牛が11万1千頭、その他の牛が2千頭で、前年に比べそれぞれ0.5%、19.5%、24.8%減少した。

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は34.3%で、前年に比べ0.6ポイント低下した。（表6・7）

表6 食肉卸売市場の成牛の取引成立頭数の推移

区 分	単位	計	市 場 別		畜 種 別			
			中央卸売市場	指定市場	和 牛	乳 牛	交雑牛	その他の牛
平成22年	千頭	421	308	114	209	72	138	3
23	〃	400	296	104	215	72	111	2
対前年比	%	94.9	96.3	91.1	103.1	99.5	80.5	75.2

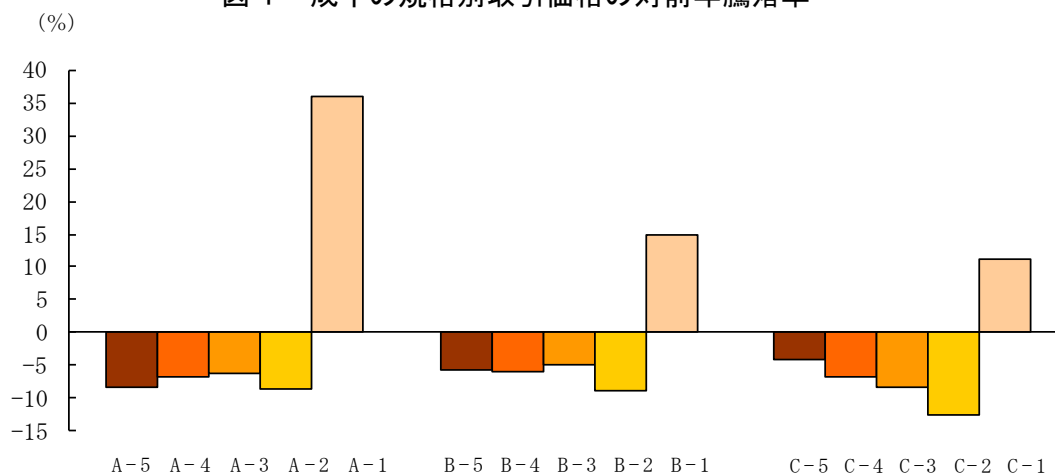
表7 成牛の全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

年 次	全国と畜頭数		割 合
	千頭	食肉卸売市場 千頭	
平成22年	1,209	421	34.9
23	1,166	400	34.3

### (イ) 卸売価格の動向

食肉卸売市場における牛肉の規格別卸売価格を対前年騰落率で見ると、「A-1」、「B-1」及び「C-1」規格が前年を上回ったものの、その他の規格は前年を下回った。（図4）

図4 成牛の規格別取引価格の対前年騰落率



### (3) と畜場の状況

ア 平成23年の全国のと畜場数は195場で、前年に比べ3場減少した。

と畜場の種類別と畜場数及び構成割合をみると、食肉卸売市場併設と畜場が27場で13.8%、食肉センターが72場で36.9%、その他が96場で49.2%となっている。(表8)

表8 種類別と畜場数の推移(全国)

区分	単位	計	食肉卸売市場併設と畜場	食肉センター	その他
と畜場数					
平成22年	場	198	27	73	98
23	〃	195	27	72	96
構成比					
平成22年	%	100.0	13.6	36.9	49.5
23	〃	100.0	13.8	36.9	49.2

イ 豚及び成牛のと畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数をみると、豚を処理したと畜場数は165場、と畜頭数は1,639万5千頭であった。これをと畜頭数規模別にみると、10万頭以上のと畜場数は67場、と畜頭数は1,322万5千頭でそれぞれ40.6%、80.7%を占めている。

また、成牛を処理したと畜場数は148場、と畜頭数は116万6千頭であった。これをと畜頭数規模別にみると、1万頭以上のと畜場数は41場、と畜頭数は76万9千頭でそれぞれ27.7%、66.0%を占めている。(表9)

表9 と畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数の推移(全国)

区分	単位	豚					成牛				
		計	2万頭未満	2~5	5~10	10万頭以上	計	1,000頭未満	1,000~5,000	5,000~1万	1万頭以上
と畜場数											
平成22年	場	169	48	26	25	70	151	31	36	40	44
23	〃	165	44	27	27	67	148	30	39	38	41
構成比											
平成22年	%	100.0	28.4	15.4	14.8	41.4	100.0	20.5	23.8	26.5	29.1
23	〃	100.0	26.7	16.4	16.4	40.6	100.0	20.3	26.4	25.7	27.7
と畜頭数											
平成22年	千頭	16,807	202	938	1,845	13,822	1,209	7	100	281	822
23	〃	16,395	171	950	2,050	13,225	1,166	7	113	276	769
構成比											
平成22年	%	100.0	1.2	5.6	11.0	82.2	100.0	0.6	8.2	23.2	68.0
23	〃	100.0	1.0	5.8	12.5	80.7	100.0	0.6	9.7	23.7	66.0

注：当該畜種の入場のあったと畜場のみの集計値である。

## 2 鶏卵の流通

### (1) 鶏卵の生産量

平成23年の鶏卵生産量は248万3千tで、前年に比べ1.3%減少した。

都道府県別の構成割合をみると、茨城県が7.6%と最も高く、次いで千葉県が7.4%、鹿児島県が6.8%、広島県が4.9%、岡山県が4.8%となっている。（図5、表10）

図5 鶏卵生産量の推移（全国）

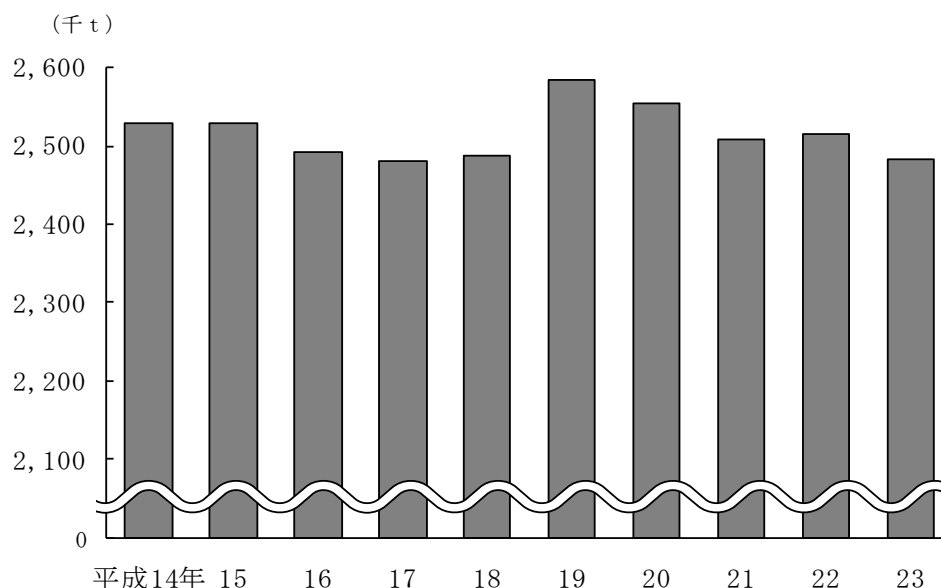


表10 鶏卵生産量（全国及び上位10都道府県）

区 分	実 数		対前年比	平成23年 構 成 比
	平成22年	23		
	千t	千t	%	%
全 国 計	2,515	2,483	98.7	100.0
茨 城	189	188	99.4	7.6
千 葉	189	184	97.3	7.4
鹿 児 島	167	169	101.1	6.8
広 島	120	121	100.9	4.9
岡 山	123	118	96.5	4.8
北 海 道	101	104	102.9	4.2
新 潟	98	102	104.9	4.1
愛 知	107	102	95.6	4.1
青 森	88	90	101.8	3.6
兵 庫	82	83	100.7	3.3
そ の 他	1,250	1,220	97.6	49.1

## (2) 鶏卵の出荷状況

鶏卵出荷量は240万8千tで、前年に比べ1.4%減少した。

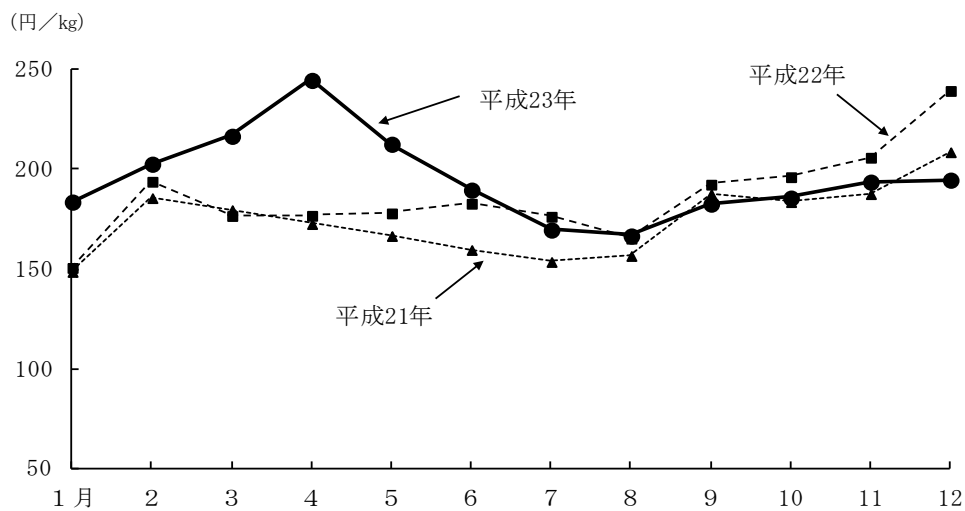
全国農業地域別の構成割合をみると、千葉県、茨城県を中心とする関東・東山が最も高く、出荷量の24.7%を占めている。次いで、鹿児島県、福岡県を中心とする九州が15.2%となっている。（表11）

表11 鶏卵の全国農業地域別出荷量

区 分	実 数		対前年比 %	平成23年 構 成 比 %
	平成22年 千t	23 千t		
全 国	2,442	2,408	98.6	100.0
北 海 道	99	101	102.8	4.2
東 北	351	325	92.7	13.5
北 陸	141	145	103.4	6.0
関 東・東 山	604	594	98.4	24.7
東 海	293	297	101.3	12.3
近 畿	131	130	99.5	5.4
中 国	301	295	98.3	12.3
四 国	131	129	98.8	5.4
九 州	369	366	99.2	15.2
沖 縄	23	24	102.2	1.0

## (参考) 卸売価格（鶏卵市況情報）

図6 鶏卵卸売価格の推移  
（東京全農系、M規格、中値）



### 3 食鳥の流通

#### (1) 食鳥の処理量

全国の処理羽数は肉用若鶏が6億1,717万6千羽、廃鶏が8,887万9千羽で前年に比べそれぞれ2.6%、2.4%減少したが、その他の肉用鶏が800万6千羽で、前年に比べ2.0%増加した。

全国の処理重量は肉用若鶏が178万3,393 t、廃鶏が15万4,004 tで前年に比べそれぞれ2.8%、2.9%減少したが、その他の肉用鶏が2万4,901 tで、前年に比べ1.3%増加した。(表12)

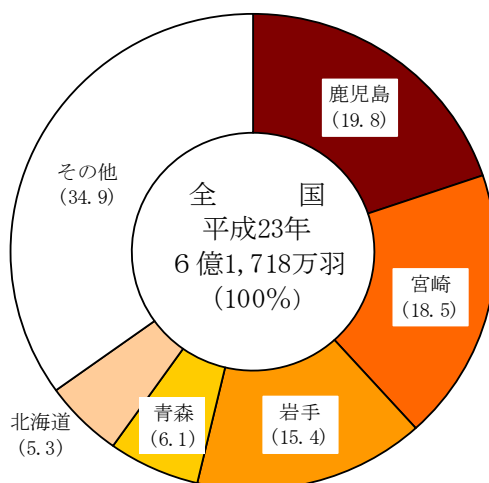
表12 全国の食鳥処理量(全国) (平成23年)

区 分	処 理 量 ( 生 体 )		対 前 年 比	
	羽 数	重 量	羽 数	重 量
	千羽	t	%	%
肉 用 若 鶏	617,176	1,783,393	97.4	97.2
廃 鶏	88,879	154,004	97.6	97.1
その他の肉用鶏(地鶏等)	8,006	24,901	102.0	101.3

#### ア 肉用若鶏

都道府県別の出荷羽数割合をみると、鹿児島県が19.8%と最も高く、次いで宮崎県が18.5%、岩手県が15.4%となっており、上位3県で出荷羽数の約5割を占めている。(図7)

図7 肉用若鶏の都道府県別出荷羽数割合

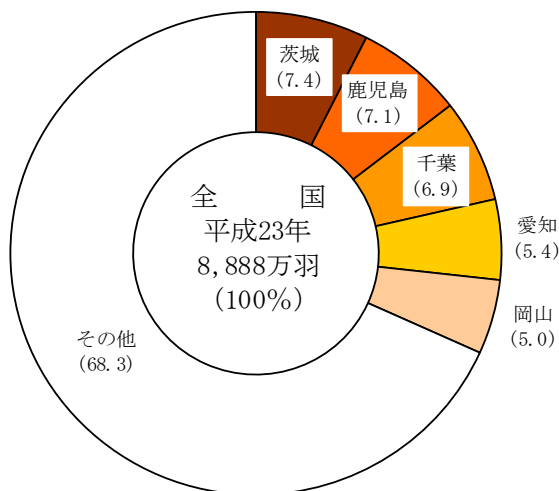




## イ 廃鶏

都道府県別の出荷羽数割合をみると、茨城県が7.4%と最も高く、次いで鹿児島県が7.1%、千葉県が6.9%、愛知県が5.4%、岡山県が5.0%となっている。（図8）

図8 廃鶏の都道府県別出荷羽数割合

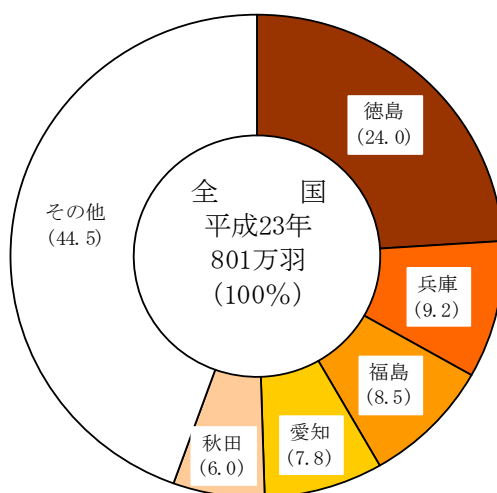


注：割合の計が100%にならないのは、四捨五入によるものである。

## ウ その他の肉用鶏（ふ化後3か月齢以上）

都道府県別の出荷羽数割合をみると、徳島県が24.0%と最も高く、次いで兵庫県が9.2%、福島県が8.5%、愛知県が7.8%、秋田県が6.0%となっており、上位5県で出荷羽数の約5割を占めている。（図9）

図9 その他の肉用鶏の都道府県別出荷羽数割合



(2) 食鳥処理場数

食鳥を処理した全国の食鳥処理場数は527場で、1処理場当たり処理重量は3,724 t となっている。(表13)

表13 食鳥処理場数及び1処理場当たり処理重量(全国)

区 分	単位	1) 食鳥処理場	食鳥の種類		
			肉 用 若 鶏	廃 鶏	そ の 他 の 肉 用 鶏
処 理 場 数					
平成22年	場	520	165	274	195
23	〃	527	161	277	200
対前年比	%	101.3	97.6	101.1	102.6
1処理場当たり処理重量					
平成22年	t	3,881	11,122	579	126
23	〃	3,724	11,077	556	125
対前年比	%	96.0	99.6	96.0	99.2

注：1)は、食鳥を処理した実処理場数であり、1処理場で複数の処理を行っている場合があることから、食鳥の種類の数とは一致しない。

(参考) 卸売価格(食鳥市況情報)

図10 ブロイラー卸売価格  
(東京、中値、もも肉)の推移

